

海外研修報告 ーフィンランドの大学および教育機関の視察ー

三重大学総合情報処理センター

伊藤 舞

ito.mai@cc.mie-u.ac.jp

三重大学工学部工学研究科技術部

和藤 浩

watoh@arch.mie-u.ac.jp

1. はじめに

平成 26 年度の学長裁量経費による海外事情調査として、筆者の 2 名がフィンランドの大学および教育関係機関などを訪問した。ここでは、その内容について報告を行う。

2. 目的および調査事項

本調査で渡航先をフィンランドに選択をした理由は、フィンランドは世界有数の教育先進国であり、また OECD(経済協力開発機構)の学習到達度調査(PISA)においては、常にトップレベルであるため、フィンランドの大学や教育行政機関の訪問調査を行い、今後の教育・研究支援に業務に応用するためである。

調査事項は、大学においては、情報処理センターの技術職員の職務内容や組織体系およびセンターの管理運営体制・使用機器などの調査、また、大学の教育体制などについても調査を行った。教育関係機関などにおいては、フィンランドの教育体系について調査を行った。

2. 研修日程と訪問先概要

渡航期間は、平成 27 年 2 月 16 日～23 日であるが、調査日は、移動日を除く 5 日間であった。訪問先の概要を示す。

大学

- ・アールト大学 情報処理センター関係

面談者:Development Manager: Mika Niemi 氏(IT Infrastructure)、Manager Ville Kivela 氏 Hannu-Pekka Poikonen 氏 (IT Infrastructure)、Project Manager Hannu-pekka Poikonen 氏(Management Office)ら他数名の技術系職員

調査内容:技術職員の職務内容や組織体系およびセンターの管理運営体制・使用機器、センターの施設見学を行った。

- ・タンペレ大学

面談者:教育学部 Sari 教授

調査内容:タンペレ大学の教育体系などの説明を受けた。

- ・タンペレ工科大学およびヘルシンキ大学

調査内容:見学のみを行った。

各大学の概要を表-1 に示す。

表-1 訪問した大学の概要

	創立	学生数	職員数
アールト大学	2010	18,943	4,675
タンペレ大学	1925	22,322	2,000
タンペレ工科大学	1965	19,708	1,463
ヘルシンキ大学	1640	38,200	7,600

教育機関

- ・地方自治教育行政機関

面談者:ユハンヌスキュラ基礎学校副校長 Markatta 氏

調査内容:ファイフィンランドの教育行政などの説明を受けた。

- ・その他

基礎教育学校、就学前教育機関、タンペレ市立図書館

調査内容:それぞれの担当者に説明を受けた。

3. 視察および調査内容

(1) アールト大学

Development Manager: Mika Niemi 氏 (IT Infrastructure)、Manager Ville Kivela 氏 Hannu-Pekka Poikonen 氏 (IT Infrastructure)、Project Manager Hannu-pekka Poikonen 氏 (Management Office) から他数名の技術系職員より、技術職員の職務内容や組織体系およびセンターの管理運営体制・使用機器などの説明を受けました、センターの施設見学を行った。センターの風景を写真-1 に示す。



写真-1 Aalto IT Services の入っている Technopolis

Aalto IT Services はキャンパスから5分ほど離れたビジネスパークに位置する。

この Technopolis には、アールト大学の他にたくさんの企業が入っているため、大学の施設というよりは、企業のような雰囲気のある場所だった。さらに車で5分の場所にはバックアップ用のサーバ室がある。数時間かかる遠隔地にもバックアップを取っており、システム、データの保全にたくさんの投資がされていた。サーバ室の風景を写真-2 に示す。



写真-2 バックアップ用サーバ室

また技術職員の組織がしっかりしており、アールト大学の IT 組織の中には3つのサービスグループがあり、一定以下の立場の人は全員、毎年、自組織の上司と面談を行うことになっていた。毎年面談をして目標をたて、フィードバックする仕組みになっており、立場がかなりたくさん用意されているため、成長しやすく、モチベーションを保ちやすい環境のように感じた。

(2) タンペレ大学

教育学部 Sari 教授よりタンペレ大学の教育体系などの説明を受けた。

タンペレ大学においても、三重大学の教育目標である「感じる力」、「考える力」「生きる力」「コミュニケーション力」のような、熱意（自分から教授に要望・アピール）、ネットワークづくり、自分の性格で対応・判断というような目標があり、大学側から行うのではなく、学生個人から行うようなことを教育目標としていた。

また、学生は自己評価日記をつけており、三重大学の学生や教職員においてもこのようなことを採用できればと感じた。



授業案内掲示板



救急箱



研究室

写真－3 タンペレ工科大学の風景の一例

(3) タンペレ工科大学およびヘルシンキ大学

タンペレ工科大学およびヘルシンキ大学は、見学のみ行った。

タンペレ工科大学は、授業案内を示す電子掲示板が非常に多く確認された。また、救急箱も多く廊下等に常備されていた。研究室は、ガラス張りのオープン的な研究室が多くみられた。これらの様子を写真－4に示す。



写真－4 大学の図書館および電算室の一連

ヘルシンキ大学は、休日であったため、キャンパスの内のみの見学となった。新旧の建物が点在しており、古い建物では、新古典主義建築物も見られた。

訪問した大学で施設の面で共通に感じたことは、図書館や学生の電算室が充実していると感じた。それらの様子を写真－4に示す。なお、ここでは、特定の大学の名前を表記せずに掲載をする。

また、アールト大学の技術系の職員においても、1年間の業務目標もあり、目標や結果報告を上司と

の面談を行っている。なお、中間期の面談もあり、進捗状況の報告や業務上できた新たな目標も追加している。

(4) 教育機関

教育機関については、以下にまとめて記載する。

フィンランドでは、小中学生頃は、少人数制で、落ちこぼれを作らない、勉強だけではなく生き方などを教える教育を行っている。低学年から英語や外国語に力を入れ教育を行っていた。また、授業では、**写真-4**のようなスマートボードを使用した授業も行われていた。

また、図工、工作、美術も盛んに行われており、大学が行っているものづくりのセミナーや科学の祭典のようなものは、ほとんど行っていなかった。



写真-4 スマートボードを使用した授業の様子

4. まとめ

本調査・視察は、大学においては、情報処理センターの技術職員の職務内容や組織体系およびセンターの管理運営体制・使用機器などの調査、また、大学の教育体制などについても調査を行った。教育関係機関などにおいては、フィンランドの教育体系について調査を行った。今後の教育・研究支援の業務に応用や検討していければと考える。

[謝辞]

本海外研修において、快く訪問を受け入れて頂いたアールト大学 IT センターの Mika Niemi 氏、Ville Kivela 氏、Hannu-Pekka Poikonen 氏ら、アールト大学の技術職員の方々に深く謝意を表します。

また、この海外研修に行く機会を設けて頂いた内田学長、鈴木事務局長、渡航の準備に際してご助力を頂いた各学部の事務の方々、筆者らの所属する研究室、施設の方々には海外研修中に色々と配慮して頂きました。心より感謝いたします。